

(社)日本原子力学会  
第28回倫理委員会議事要旨

日 時 H18.9.28(木)9:30~12:00  
場 所 北海道大学工学部A棟4階A4-59室  
出席者 北村、大場、班目、小沢、鐘ヶ江、作田、谷、中安、矢野の各委員(9名)

配布資料

- 資料 28 - 1 第 27 回倫理委員会議事要旨(案)
- 資料 28 - 2 倫理規程改訂提案一覧
- 資料 28 - 3 CSR タスクチームの活動状況
- 資料 28 - 4 Code of Ethics of the Atomic Energy Society of Japan
- 資料 28 - 5 学会誌「倫理つれづれ」
- 資料 28 - 6 第 6 回原子力に関する倫理研究会報告
- 資料 28 - 7 第 7 回「原子力に関する倫理研究会」開催について(案)
- 資料 28 - 8 - 1 2006 年秋の大会倫理委員会セッション(企画書)
- 資料 28 - 8 - 2 倫理事例集を使った事例研修の試行(セッション資料)
- 参考資料 28 - 1 技術倫理協議会公開シンポジウム

議事

1. 石橋、森、両学会理事と谷氏が倫理委員に就任したことの紹介があった。
2. 資料 28 - 1 の前回議事要旨を確認した。
3. 資料 28 - 2 を用いて、班目幹事より倫理規程の検討項目の説明があった。アンケートを中心に意見集約していくという今後の改訂作業方針が了承された。
4. 資料 28 - 4 により、大場副委員長から倫理規程の英訳についての説明があった。ネイティブスピーカーによるチェックも妥当なものであり、それを反映したものを最終版とすることを了承した。なお、チェックを受けたことも掲載することを確認した。
5. 資料 28 - 5 により、大場副委員長から倫理つれづれ 10 月号の紹介があった。これをもって掲載が終了となることが報告された。
6. 第 6 回原子力に関する倫理研究会の受講証は CD-ROM にはさむ形で発送することとした。技術者の生涯教育受講の証明書の役割や研究会の宣伝の効果を考え、第 7 回以降も続けることとした。
7. 資料 28 - 7 により、小沢委員から第 7 回原子力に関する倫理研究会の説明があった。東京工業大学 COE-INES (21 世紀 COE プログラム 世界の持続的発展を支える革新的原子力) の共催で開催することを了承した。パネルディスカッションのモデレータは北村委員長が務めることとした。パネリストとして産業界所属の学会の理事にも出席を要請することとした。研究会のテーマ名は「CSR 活動は原子力関連組織を活性化できるか？」が有力であるが、詳細は担当委員に一任された。なお、今回は「学会の SR」には限定し

ないで実施するが、そのテーマについても今後開催を考えることとした。なお、参加者を 100 名集めるのに努力が必要なこと、そのためには企業のトップなどの本音が聞けるような興味深い企画とすることが大切なことを確認した。ISO9000s や 14000s 関係者への宣伝も考えることとした。参加費は 5000 円とすることとなった。

- 8 . 資料 28 - 8 - 1 により、作田委員から秋の大会の企画セッションの内容説明があった。
- 9 . 資料 28 - 3 により、CSR タスクチームからこれまでの活動状況と今後の計画について報告があった。「原子力学会の考える CSR とは何か」を考える方向で作業は進行中である。第二ステップまで終了したが、第三ステップを多少変更する形で実施することが報告された。なお、この作業は倫理規程の充実にも資することができるものであり、そうしてもらいたい旨の発言があった。
- 10 . 資料 28 - 6 により、中安委員から第 6 回原子力に関する倫理研究会の報告があった。参加者への報告書は PDF 化して CD-ROM 配布とすることとし、今回は中安委員が CD-ROM 化を担当することとした。また、その CD-ROM の販売も行うこととし、宣伝することになった。今後 CD-ROM 化をどこが担当するかはケースバイケースで考えることとした。委員への報告は宅配メールを使うこととした。
- 11 . 参考資料 28 - 1 により、大場副委員長から技術倫理協議会公開シンポジウムの紹介があった。委員会から資料購入の費用を出すことを了承した。また、技術倫理協議会の活動の紹介があり、原子力学会からの委員は鳥飼委員のほか、大場副委員長から矢野委員に交代することとした。
- 12 . 技術者の倫理ケースブックは 2000 冊が既に販売ないし予約済みであること、さらに販売依頼が来ていることの紹介があり、1000 冊増刷することとした。
- 13 . 班目幹事より、学会発表の連名の記載方法の問題への対応策の検討を理事会に依頼したことが報告された。9 月の理事会において、論文誌については編集委員会が、年会・大会等での発表については部会等運営委員会が検討することとなったので、倫理委員会としてはしばらく様子を見守ることとした。なお、学会が著作人格権を侵す場とならないよう、委託契約のありかたについて企画委員会を中心とした検討も考えられていることの報告もあった。
- 14 . 中安委員より、倫理委員会の活動の一部を研究構成要因として科学研究費補助金を申請したらどうかとの提案があった。中安委員が研究代表者となり、委員から研究協力者を募ることとなった。
- 15 . 次回は 11 月 21 日 10 : 00 から第 7 回原子力に関する倫理研究会の会場で開催することとなった。